

BOX 便り

【記念式典に参加して】

1年生の思い

1年生 桑 鶴 智 大

75周年という節目の年に入部し、この度の記念式典並びに祝賀会に参加して何よりも感じたのは航空部の歴史の長さで重さでした。

まず、真っ先にOB・OGの人数の多さに驚かされました。これだけ多くの、そして年代が様々な方達が、今自分達が所属している部を作り上げてきてくれて、今なお支えてくれているのだということを見て感じ取ることで、航空部というものがどれだけの歴史を積み重ねてきたかを初めて肌で感じ取りました。部としての歴史が長いことや所属していた先輩方がどのような功績を残してこられたのか等の話を聞くことはあり、ほんやりと伝統のある凄い部なのだとは思っていました。しかし、実際に集まられたOB・OGの方々を目の当たりにして想像以上であった航空部の歴史の重さを感じ、また同時に自分もこれから航空部の歴史を受け継ぎ、紡いでいく必要があるという自覚を持ちました。

名誉会長をはじめ、会長や部長先生の話や創部75周年に対する思いを聞いたことも為になりました。とりわけ航空部創立時の話や当時の実体験の話は記念式典のような場でないと聞けない貴重な話ばかりで話されている間、聞き入っていました。また、75年という長い歴史のなかで何を感じていらっしゃるのか、そして現役の私たちに何を成して欲しいのかといったお言葉をいただき現在私達が当たり前のように活動している航空部が出来るまでには様々な苦労があり、そしてその活動出来るのはかつての先輩方の活躍や功績があったからこそあるものだと感じ、感謝の思いとそうしたものの上に成り立っている航空部を今度は自分た

ちが活躍、功績を残し同志社大学航空部を強く素晴らしい部であり続けさせるという使命感を持ちました。

祝賀会では様々なOB・OGの方々やスポーツユニオンの方々、他部の監督の方々から話を伺うことができました。また、当時の貴重な映像を見せて頂いたり、最後に全員で斉唱したOne Purposeは75年間すべての航空部員が一体になっているかのように感じ圧巻でした。

前に述べたように、今の航空部があるのは75年という歴史を築いてこられた先輩方の活躍や功績のおかげでありこれからは私たち現役部員もこれからその歴史の一部を築いていかなければなりません。年によっては部員や、様々な面で恵まれた年で活動された先輩方や、逆に多くの苦労や問題をかかえて活動された先輩方がいるでしょう。今、現在私たちが活動している航空部がそのいずれの状況に置かれているかはわかりません。しかしやるべきことはどちらの状況であっても変わりません。常に今私たちができる最高の努力と航空部に対する思いを持って、活動に取り組んでいくべきであると考えています。その時々で先輩方のやってきたことを参考に自分たちなりの考えを持ってこれからの航空部をより強くより素晴らしい部にしていき、自分たちの引退まで精一杯頑張る所存です。自分たちにはこれだけ支えてくれているOB・OGの方々がいる、そして紡ぎ上げていくべき重く長い歴史があるということを実感出来る良い経験を得た式典であったように思います。

BOX 便り

【記念式典に参加して】

1年生の思い

1年生 桑 鶴 智 大

75周年という節目の年に入部し、この度の記念式典並びに祝賀会に参加して何よりも感じたのは航空部の歴史の長さで重さでした。

まず、真っ先にOB・OGの人数の多さに驚かされました。これだけ多くの、そして年代が様々な方達が、今自分達が所属している部を作り上げてきてくれて、今なお支えてくれているのだということを見て感じ取ることで、航空部というものがある歴史を積み重ねてきたかを初めて肌で感じ取りました。部としての歴史が長いことや所属していた先輩方がどのような功績を残してこられたのか等の話を聞くことはあり、ほんやりと伝統のある凄い部なのだとは思っていました。しかし、実際に集まられたOB・OGの方々を目の当たりにして想像以上であった航空部の歴史の重さを感じ、また同時に自分もこれから航空部の歴史を受け継ぎ、紡いでいく必要があるという自覚を持ちました。

名誉会長をはじめ、会長や部長先生の話や創部75周年に対する思いを聞いたことも為になりました。とりわけ航空部創立時の話や当時の実体験の話は記念式典のような場でないと聞けない貴重な話ばかりで話されている間、聞き入っていました。また、75年という長い歴史のなかで何を感じていらっしゃるのか、そして現役の私たちに何を成して欲しいのかといったお言葉をいただき現在私達が当たり前のように活動している航空部が出来るまでには様々な苦労があり、そしてその活動が出来るのはかつての先輩方の活躍や功績があったからこそあるものだと感じ、感謝の思いとそうしたものの上に成り立っている航空部を今度は自分

ちが活躍、功績を残し同志社大学航空部を強く素晴らしい部であり続けさせるという使命感を持ちました。

祝賀会では様々なOB・OGの方々やスポーツユニオンの方々、他部の監督の方々から話を伺うことができました。また、当時の貴重な映像を見せて頂いたり、最後に全員で斉唱したOne Purposeは75年間すべての航空部員が一体になっているかのように感じ圧巻でした。

前に述べたように、今の航空部があるのは75年という歴史を築いてこられた先輩方の活躍や功績のおかげでありこれからは私たち現役部員もこれからその歴史の一部を築いていかななくてはなりません。年によっては部員や、様々な面で恵まれた年で活動された先輩方や、逆に多くの苦労や問題をかかえて活動された先輩方がいるでしょう。今、現在私たちが活動している航空部がそのいずれの状況に置かれているかはわかりません。しかしやるべきことはどちらの状況であっても変わりません。常に今私たちができる最高の努力と航空部に対する思いを持って、活動に取り組んでいくべきであると考えています。その時々で先輩方のやってきたことを参考に自分たちなりの考えを持ってこれからの航空部をより強くより素晴らしい部にしていき、自分たちの引退まで精一杯頑張る所存です。自分たちにはこれだけ支えてくれているOB・OGの方々がいて、そして紡ぎ上げていくべき重く長い歴史があるということを実感出来る良い経験を得た式典であったように思います。

【記念式典に参加して】

2年生の思い

2年生 城戸悠太

2011年、同志社大学航空部は創部75周年を迎えました。私自身この75周年という記念すべき年を現役の学生として迎えたことがあまりにも偶然で非常に驚いていると同時に、とてもうれしく思います。

さて、75周年を迎えたことを祝う記念式典が行われました。場所は京都全日空ホテル。OBの方のお話を聞くと、50周年の式典も同じ場所で行われたとのことでした。そのような縁があったからか、上層階の会場にASW28を組み立てて展示するという非常に大がかりな作業も行われました。準備段階で緊張の連続だったように思います。

開場してから、参加されたOBの数の多さに圧倒されました。航空亀齡賞を受賞された牧野鐵五郎氏をはじめ、普段の合宿や大会にお顔を出して頂いている方、近年卒業された方々が全国から多数来て下さいました。私たちが普段、安全に飛んでいられるのはここに来て頂いている、そしてさらにたくさんのOBの方々から支援を受けているからだと実感しました。

創部75周年を記念して行われたこのイベント。このイベントがあったからこそ、私自身も自分なりに同志社航空部の歴史を意識して考えるようになりました。普段のクラブ活動では「今」の状況を常に考えながら、先にある問題を一つ一つ解決していく。そのようにして部活が運営されています。過去を振り返ったとしても、あくまでこれから先の問題を解決するための判断材料でしかありません。しかも、航空部の部員として現場に居るのは4年間と短いです。もし、このイベントがなければ「今」を考えるのみに終始して卒業してしまっていたと思います。私たちが何気なく搭乗している機体でもKa6-EやASK13の古い羽布機や、

導入して25年経つASK23も非常に状態良く飛行できることはひとえに諸先輩方のおかげなのです。食事会の最中に古い映像が流れていました。映像の最初のほうで玉水橋のたもとで活動している様子が流れていました。玉水橋といえば、同志社の京田辺キャンパスに非常に近い場所です。また、大阪八尾空港でも訓練していたことも初めて知りました。いずれにしても、距離的に近い関西で訓練できることを非常に羨ましく思っていました。でも、もしかしたら京田辺の木津川河川敷で訓練できるのではないかと真剣に考えています。一部のOBの方も同じことをおっしゃっておられました。

いつの間にか木津川に滑空場を作るというかなり先のことを考えてしまっていました。同志社航空部の歴史を支える一員としてこれからも頑張っていきたいと思います。OBの皆さまいつも多大なご支援賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【記念式典に参加して】

3年生の思い

3年生 川又さおり

私は学生の代表としてこの75周年記念式典・祝賀会の実行委員会に参加させていただいていました。初めは会議に参加して状況を把握することで精いっぱいでしたが、回数を重ねるごとに75周年という月日の重みを感じ、また式典・祝賀会を成功させたいという思いが強くなりました。ところが、50周年のときの記念式典は素晴らしく今でも多くのOBの方々の記憶に残っているという話を聞き、プレッシャーを感じました。そんなプレッシャーを感じながらも実行委員会に参加することによって、実行委員会の強い思いが伝わり、50周年の記念事業と同じくらいに成功させたいという思いがますます強くなりました。

50周年記念式典の時は50周年事業で購入した機体を会場に展示したということで、今回も75周年事業で購入した機体を展示したいという希望があり、同じ会場で行うことになりました。

その会場には業務用のエレベーターがあるものの前回より機体のサイズが大きくなったため、使えるかどうか不安もあり、下見や打ち合わせを行うなど大変でしたが、無事に会場に機体を展示することができ、そして多くの方々の目にふれることができ、昔の懐かしい記憶を思い出すきっかけになったと感じました。

また昔の映像を流すことにより昔の活動を思い出したり、若い世代にとっても昔のグライダーの飛び方などを見る良い機会になったと思います。今回はシミュレーションの導入も行い、グライダーの操縦も楽しんでいただけたと思います。

このようなたくさんの企画を成功させることができました。多くの方々に楽しんでいただき、そして記憶に残る75周年事業であったならばよかったです。

この75周年記念式典・祝賀会の成功には、たくさんのOBの方々の協力がありました。お仕事の忙しい中、私たちの航空部のためにご協力、また大勢の方々からの寄付もいただきました。本当にありがとうございました。このようなたくさんのOBの方々に私たちは支えられていること、また私たちをいつも温かく見守ってくださっていることを改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また当日にはいつもは遠方にいるため会えないOBの方々ともお会いすることができました。初めて直接お会いするOBの方々から私たちの活動を見守り、応援されていたこともお聞きすることができ、とても嬉しく思いました。

私たちは改めてたくさんの方々から支えられていることがわかりました。これは私だけでなく学生みんなが感じたことだと思います。同志社航空部は学生だけでどうにかなるものではないと思います。たくさんの方々からの協力があり支えられ成り立つものだと思います。

これからも同志社航空部をどうぞよろしく願い致します。

【記念式典に参加して】

4年生の思い

4年生 松本江里加

2011年10月。同志社航空部は75年という大きな節目を迎えるに至りました。式典には学長や総長をはじめとした同志社大学、同志社大学体育会の関係者の皆様、日本学生航空連盟の皆様、そして同志社航空部OB・OGの皆様と多くの方々にお越し頂き、盛大に75周年を迎えることができました。

最も印象に残ったのは記念講演でした。小野哲名誉会長のご挨拶も千玄室様のお話も、現在の私たちの活動とは当然ながらも全く異なっており、驚かされる内容が多々ありました。特に戦争の最中、母親のことを思いながら敵軍への攻撃の為に仲間が次々と戦死していくという話は、今の私には到底想像できない悲しみで思わず涙がこぼれました。現在私たちが自分自身の為、あるいは共に戦うチームの為に、当たり前のように空を楽しんで飛べることが如何に幸せなことなのかを痛感しました。また、千玄室様の「静かな明鏡の境地に入ってから操縦桿を握れば、きつといい風、きつといい飛び方ができる、怖がってはダメ」というお言葉が私の心に残りました。特に私は自信の無さがフライトに顕著に反映され、教官方からも“まず落ち着いて飛びなさい”と何度も指導を受けておりましたので改めて反省しました。

式典を通して最も感じたことは75周年という歴史の重さでした。毎年開催される部内の行事でお会いするOBの方から現役時代のお話を聞く機会はありましたが、今回の式典は遠方にお住いの方にも多数お越し頂き、当時のお話をたくさん聞かせて頂きました。ハトK-14(JA0122)での飛行練習が大変だったこと、H23C(JA2047)でフライト

した時のお話、Ka-6Eを同志社に導入したときのお話など、どれも新鮮で興味深い話でした。

普段はあまり気に留めることはありませんが、75年という月日の中で卒部されていった250名を超える部員の想いが同志社航空部には詰まっており、それが今の同志社航空部に繋がっていると考えると感慨深いものがありました。

私はこの3月をもって卒部しますが、これからの航空部を作り上げていく現役部員には、75年分の想いが詰まっていることをどこか頭の片隅に置いて、今後80周年、90周年、そして100周年、さらにもっと先の世代へ……とグライダーの楽しさを伝え続けられるよう、ますますの発展を心から祈ります。